

やりたいって思ったことはやっていったほうがいい

です

語り手 山尾 健人（高校二期生 会社員） 聞き手 加藤 優佳

*

高校から大学

—大学の学部ってどこに行かれたんですか？

立命館大学の国際関係学部にいきました。その中でも国際関係学科とグローバルスタディースの留学生がいっぱいいる方があったんですけど、そっちはちよつと英語の点数足りなくて、国際関係学科に行っていました。

—国際関係学科に行こうと思ったっていうのは、ボストンの海外研修がきっかけですか？

そうですね。それが一番大きいかなと思ってます。一応高校の時、理系のクラスにいたんですけど、あんまり理系で活躍できる自分の未来が見えへんくて。どっちかっていうと、数学的な考え方も使え、論理的な考え方も使えて、英語でコミュニケーションするみたいな学部が向いているかなと思って、この学部を選びました。

—じゃあ、英語は得意なんですか？

はは。いや、そういう話になるんですけど。うーん、どうなんでしょう。人並みくらいですね。けど、そうですね。別に媚びてるわけじゃないんですけど、高校二年間、由谷先生が担任やったタイミングがあつて。で、英語の担当も由谷先生がずっとやってもらってたんですけど。英語を学ぶっていうよりは、英語で学ぼうというか。英語とかい

な言語ですけど、それ知ってる、今まで日本語やったら知らなかったことがいっぱい吸収できるじゃないですか。コミュニケーションも含めて、そういうところがいいなと思って、この学部を選びましたし、一番好んで勉強してたのが英語やったかなっていう。できるかどうかは置いていて（笑）。

—へー。一番好きなのが英語だった。

そうですね。勉強の中では。

—今のお仕事でも英語は使われるんですか？

グッドクエスチョンですね。

—ははは。

今はちよこちよこあるかなっていう感じなんですけど。一年目、今社会人三年目で、一年目の時にグローバルマーケティングっていう。マーケティングって聞いたことがあります？

—言葉だけ。

二つあって、商品企画っていう観点と、あとは販売を促進する、どうやったら物売れるようになるかなっていう。で、そういうものが売れるかなって。この二つがマーケティングっていう意味には込められていて。それをグローバルで国際的な場面でやっていきましようみたいな部署にいます。その時は結構英語使っていましたね。

—じゃあ、仕事で由谷先生の授業の英語で学ぶみたいなのが。

そうですね。英語を使ってやってほしいこととか、結構現地の営業マンにこういう売り方をしてくださいとか、こういうヒアリングの仕方をして、今後の商品開発につながるような情報を取ってきてくださいとかっていうのを言ってたんですけど。英語を使っているんな、向こうがどういう悩みを抱えてるとか、お客さんがどういうふうに考えてて、みた

いのをやりとりしてたんで、そういう意味ではつながってるかな。

*

高校時代

―高校生活の一番の思い出ってなんですか。

一番の思い出。部活ですかね。ハンドボール。全然強くなかった。今も多分そうですかね。あります？男子ハンドボール。

―そんな運動部詳しくなくて。わかんないですけど。

そうなんです。あ、児玉先生。なんかイケメン風な。数学の先生。

―えー。わかんないです。

渡邊先生。体育の。

―中学の時にお世話になりましたね。

中学の時に！今もおられます？

―はい、今も中学の方に。

中学の方におられる。ハンドボール？

―いやー。今はどこの顧問でもなさそう。

そうなんです。その二人に教えてもらって。心を鍛えられたというか。結構、コンタクトの激しいスポーツというか、ぶつかり合いみたいなのが多かったんで、メンタル面すごい鍛えられたんで。そういう意味で、一番成長したかなって思いますね。それが一番の思い出ですね。

―今、部活の時の友達とかと会ったりしてるんですか？

しますよ。今東京にいて。東京に二人かな、そんな時の友達っていうか、同級生というか、メンバーがいて。最近も会いましたね。

―そういう時ってどういう話するんですか？

あんま高校の部活の話はしなくて。そういや、あん時、高校の

同級生が結婚した。もう年齢も年齢なんで、結婚したらいいとか、結婚しそうやでとか、なんかそういう話とかはしたりしてますね。けど、別にそんな高校の思い出話はあんまり。

―そんなにしないですよ。

そうっすね。もう結構経ったんで。

―なんでこのインタビュー受けてくださったんですか？

なんか結構いろいろないい機会もあって、由谷先生とか。大学の中からいろんなこういうのあるよみたいな、高校の時からもそうですけど、こういうイベントどう、みたいなかけてもらったりしてたんで、なんかできることがあればと思って。一方的にね、享受してばかりやったらなんか嫌じゃないですか。日本人の心理というか。

―オムロンを選んだ理由ってというのはなんですか？ボストンの海外研修で経営について学ばれているので、自分で起業とかも選択肢にはあるじゃないですか。なので、この仕事にした理由が気になります。

なるほど。ボストンで起業の話とか、起業家精神がとかって言われたりとか、教えてもらったりとかしたんですけど、あくまでそれは考え方っていうか、会社内でもできるっちゃできるというか、ポジションにもよると思うんですけど。こういう新しいビジネスをやっていきましようっていうのはやれるなと思ったのが一つ、だいたい起業する人でも、最初はサラリーマンを経てなってる人が多いというか。そんな度胸あるタイプでもないんで、リスクも大きい、リターンも大きいかもしれないですけど。一旦サラリーマンになろうかなと思いました。で、なんでオムロンかつていうと、衣笠キャンパスって行かれたことあります？

―ないです。
ないっすか。BKCの方があるんか。

—そうですね。

衣笠、京都駅からバスが出て、直通の。京都駅から行く時にはオムロンの京都本社の前を通るんですよ。そんなところにあるんやーっていう一つ馴染みがあったのと。あとは、僕、高三の時アイルランドに行つて。学校のやつで。いろんな外国人とか。で、いろんなアイルランド人以外の人も話したりして。日本のイメージで結構、トヨタとか、ソニーとか、ものづくり系が多かつて。で、ものづくりってやつば認められてるんやなっていうふうに感じて、それを自分で発信するような仕事をしたいなと思つて、メーカーの営業、というか、メーカーを志望しようかなと思つて受けたのがオムロンでした。いろんな会社受けたんですけど、就活なんでね、色々あるんで。他もあつたんですけど、馴染みあるし、関西やしと思つてオムロンにしました。で関西で働けると思つたら東京になつちやつて。今は品川にオフィスがあるんですけど、品川で働いてます。

—営業って常に誰かに売り込む感じなんですか？

オムロンの営業スタイルっていうの、会社で結構色が違うかなと思つて。営業っていうと売り込むっていうイメージが強いんですけど、それも会社によるかなと思います。うちの営業しかわかんないですけど、売り込むって感じじゃなくて、何か困つてることがあつて、それをうちの製品を使って解決できないですかっていう形の営業なんで、もしそれが刺さらない場合は買ってもらわなくて大丈夫ですというスタンスなんで、あんまり営業営業してる感じじゃないかなと。

それが結局何円で買つて守られるかって結構大事じゃないですか。例えば、いらんなって思うもんを高く買いたいって思わないですよ。ちようにどなんかに困つて、それほしいなと思つたものがちよつと高いな

と思つて売られてたら迷いますよね。っていう考え方が基本にあるんで、買つてくださいみたいな感じではやらないですかね。

プログラミング系の方に進みたいって？

—はい、今はそう思つて。情報理工に。ただ、職業っていうのが全くわかつてないからどうなのかなっていう感じですよ。

今のコースは何になるんですか？

—グローバルコースの理系の方で。

いいっすね。そんなんなかつたんすよ、僕ら。理系か文系かグローバルか。高三の時から多分分かれて。今はないか。理一っていう。文一、文二、文三、理一、理二、アドバンス理系、グローバル。

—いっぱいですね。

そう。アドバンス理系はBKCに週二回、三回かな。行かなあかん。めんどくせえと思つて。別に行けたんすけど、理一に行ったんすよ。真ん中のクラスの。やのに国際関係学部っていうね。けど今はグローバルの中に理系も文系もあつて。

へー。今、高二、何やつてたっけ。積分とか？

—それは多分もうちよつと先ですね。今は数学だと数列。

懐かし。結構得意でした。

—えー。

まだ軌跡とかよりは。まあまあできたんすよ。勉強だけ。いや、なんの自慢やねん(笑)。

—大事です。

まあまあできたんすよ。けど、このままずっと数学やんのかーっていうのが耐えられへん。好きじゃなかつたんすよね。だからあんまりそっちに進みたくないなと思つて。建築とか楽しそうじゃないですか。国際

関係学部第一志望で第二志望建築デザインやって。そんなやつ君しかないって。

―似てるわけでもないですしね。

そう、全然。でも楽しそうじゃない？建築デザインとか。デザイナーとか言われたいあん。かつこええなと思って。結局国際関係に行つたんですけど。情報理工ってグローバルなんちゃらみたいになかった？

―ありますね。

ああいうのにいききたいなみたいな。そういうんじゃない？

―いや。もう英語苦手。単語覚えられないし文法もわからないし。

そうなんや。将来どういふことやりたいとかあるん？

―わかんなくて、どういふのがいいんでしょうね（笑）。

こういうことがやりたいなとか、どういふ生活を送りたいなとか。将来アメリカで犬と二人で芝生に犬走らせて、土日過ごす将来がいいなと思つてやってるんで。そうするためにはついでというので逆算していったら自然とお金いるなみたいなとかつて考えてましたけど、昔は。

―きつと、将来がアメリカに住むやから英語が得意なんですよ。

昔はね、昔は確かにそうやった。今はもうちよつと現実的に見て。流石に、そんな寂しい、一人で帰つて来なあかんやん、みたいな。もうちよつと変わってますけど。どうすか？

―うーん。難しいですね。

難しいですよ。僕も高三、高二か。高二で高三のコース決める時にどうするんや、みたい。担任と親とどういふ学部行くんや、みたいな。何したいんやみたい。いや何したいとか別にないんや、と。ただ、自分が得意なことでもちよつとでも世の中の役に立てるような仕事がいいねってだけ思つて。

それでいくと、僕理系科目好きやけど得意じゃないと思う。人よりは多分できますけど得意じゃない、自分の中では。英語とか歴史とかを勉強して、コミュニケーションを図っていくような方が得意やと思いますし、世の中の役に立てそうですって言つて、国際関係学部だった。そんなんでもいいと思うんです。なんか進路相談みたいになつてきた（笑）。

―学生の頃から人と話すのは好きというか、得意というか、そんな感じだったんですか？

うーん。どうなんでしょうね。結構目立ちたがり屋だったんですよ。

陰キャやのに。めっちゃ陰キャやったんすよ。

―えー。

いや、ほんまに。高三の市民ホールの劇、妖怪Bみたいなさせられて。あまりにもセリフ少ないから、アドリブで喋ったら、めっちゃなんか陽キャの女の子に怒られて。ほんまに何してんのって。目立ちたいんやけど、別に陽なキャラでもなかったんで、一番めんどくさいやつ。ほな主役手挙げるよつていう（笑）。そこまでは自信ない。そんな感じじゃないんですか？主役で。

―私は主役なんかやりたくないっていうタイプです。

―そうなんすね（笑）。劇は何をするんですか？もう終わりましたっけ。

―まだ、劇は来年、高三です。

えつと、高二のやつ。

―高二は劇ないです。

えー！劇じゃないの？！

―教室で好きな出し物をするっていう感じですね。

劇じゃないんですね。僕は劇やってたな。高二でも高一でも。今喋ってて、うわー、やりたかったな主役、って今でも思いますもん。

—今、昔に戻ったら手挙げてますか？

うん。ルフィーの役とか、別にワンピースじゃないけど。うわー、やりたかったな。やりたいてって思ったことはやっていったほうがいいです。ほんまに、もう無理やからね。

—高校の時何が流行ってたんですか？

何が流行ってたんやろ。あ、乃木坂。僕めっちゃ乃木坂好きやって。高校の時は一回しか行ってないけど、握手会とかも行ったね。乃木坂流行ってた。あと、ウイイレとか、ゲーム。荒野行動とか。部活のみんなやって。海外研修の時もカナダにいるやつとボストンで。ボストンでもなんか部活のメンバーやって、同じ部屋、四人で。四人部屋みたいなとこやって、カナダにいるやつと二人と四人でした。夜やで、普通の活動時間じゃないで。

—次の日やばそう。

そうやな。めっちゃやってたな。楽しかった。それが流行ってたかな。進撃の巨人とかあるけど、中学校の時から流行ってたしな。今、全然わかんない。音楽とか何聴くんですか？

—私はJ-POPばかりですけど、友達はK-POP聴く人が多いですね。K-POPが流行ってるんじゃないですかね、多分。

—そうなんや。BLACKPINKとかか。そういう意味でいうとあんま変わってないよな。

—話変わるんですけど、探究の授業ってありましたか？

探究、あったかな。あった気がするな。

—何人かのグループか一人かで自由研究みたいな感じで。

あー、やってたやってた。地球の社会的課題的なやつを掲げられて、汚水の問題を、インドとかアフリカのみたいな。それをどう解決できましかっていうのを班で考えろ見たいのがあった気がする。倉本先生っている？

—多分いいです。

—いないか。担当してたんやけど。あ、田辺先生。

—田辺先生はいます。

あったね。それで汚水を取る濾過装置を作りますって言って調べて、炭とか買ってきて砂とか入れて、この泥水が綺麗になりますって。全然汚くてさ、やったやつ。ちよつと失敗なんですけど（笑）。これをもうちよつとお金かけて作れば問題の解決の一步になるんじゃないかみたいな言ったりしてたね。ちよつと違うかもしれん。

—確かにちよつと違いますね。私たちはテーマを自分たちで決めてやってますね。

*

学生時代を振り返って

—そうなんや。今は探究の授業で考えてはと思うんですけど、仕事とかになった時も、仮説というか、その感覚が大事というか。勢いで意見言う人いるけど、なんでそう思うんやろみたいな、聞いている側が納得してないとかあんまり意味ないから。絶対理由が納得できる内容かどうかって言うのが大事で。そう言う意味で言うと、人との関係性を構築していくような仕事したいなと思って、理系からは今外れてるとは思いますが、ですけど、仕事としてこう言うふうに動いたらこうなるかなみたいなのを考える。この仮説を持って、理由を考えて、結果を予測してみたいな考え方は理系に行って培われたものかなと思いますし、理系文系関係なく

大事なことだと思いますので、頑張ってください。考えなしに何もできないよねって言うだけなんですけどね。簡単に言うと。

―何かアドバイスみたいなものありますか？

割といろんなチャンスが降ってくる学校かなと思って、普通の学校じゃさせてもらえへんようなことを。アイルランド行ったりとかもそうやし、濾過して汚水を綺麗にするやつみんなで考えて作ったりとかもしてきてないと思うし。

英語のプレゼンとかがあつたんやけど、それで三位やつたんよ。学年で発表させてもらって。結構ないことをさせてもらえるととか、チャンスはいっぱいあるかなと。みんなが参加するようなやつじゃなくても、先生に聞いてみたらこう言うのあるで、とか教えてもらえたりするし。留学とかじゃないけど、ボランティアとかイベントとか。いっぱいチャンスがあるいい学校やと思います。非常に。

あ、けど、いい意味でやつぱり変な先生も（笑）。話聞いてても、こう言う考え方もあるんかって他の学校より思うこと多いんじゃないかなと思いますけど。あんまそこを使いきれなかったなっていう思いもあるんですけどね。こうやりたいですって言った時には時間使ってやつてくれたりとかもしてくれると思うんですよ。それをせえとは言わないですけど、そうしてもらええる環境ってありがたいし、珍しいことなので、ぜひ恵まれた環境をフルに元取るくらいの気持ちで使い倒したらいいんじゃないかなって思います。

―頑張ります。ありがとうございました。

【感想】

文化祭で主役に立候補しなかったことを「やってみたかった」と感じた話が心に残った。今は当たり前だと思って見過ごしてしまうことも、大人になってから「挑戦しておけばよかった」と後悔することがあると思う。だから、自分の限界を勝手に決めてはいけなさと感じた。また、一つ一つの授業や経験が将来につながると気づいたので、これからは自分の経験を大切に、新しいことにも積極的に挑戦していきたい。



右：語り手 山尾 健人さん
左：聞き手 加藤 優佳